

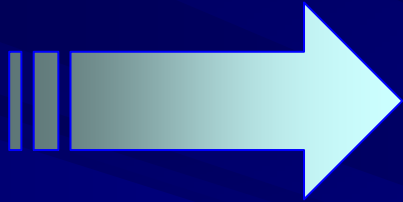


適正な施工管理について

施工計画書の作成方法

施工計画書の重要性について

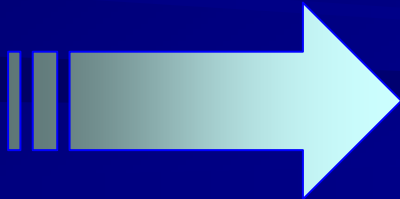
目的（何のために？）



- よりよいものを（品質管理）
- より安全に（安全管理）
- より経済的に（工程・労務管理）

ミス、手戻り、事故、遅延防止

同一の現場条件はない！



それぞれの現場ごとに
それぞれの現場条件に応じて作成

まず最初にすることは？

★その現場特有の条件は何か？

施工計画検討の前提条件

★設計図書の確認！

特記仕様書、図面、共通仕様書等

段階確認内容、品質管理、施工管理、安全管理

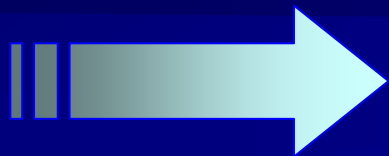
→完成検査時に必ずチェックします。

★現場条件の確認！

・地形、地質、気象、道路状況、支障物件、地元

特に重点的に検討すること

- 数量、工費の大きい工種
- 高度の技術が要求される工種
- 安全面での危険度が高い工種
- 地元又は環境に及ぼす影響が大きい工種



検討結果を必ず書面で整理し、施工前に提出！

施工計画書に書くこと

施工計画書は次の内容を記載してください（共通仕様書）。

- (1) 工事概要
- (2) 計画工程表
- (3) 現場組織表
- (4) 指定機械
- (5) 主要資材
- (6) 施工方法（主要機械、仮設備計画、工事用地等を含む）
- (7) 施工管理計画
- (8) 段階確認、随時検査計画
- (9) 安全管理
- (10) 緊急時の体制及び対応
- (11) 交通管理
- (12) 環境対策
- (13) 現場作業環境の整備
- (14) 再生資源の利用の促進と建設副産物の適正処理方法
- (15) その他

必ず施工前に！

提出時期；当初→工期の始期日から30日以内

変更→当該工種着手前

施工計画書の主なチェックポイント（現場組織表）

（１）現場組織表

★主任（監理）技術者の役割が明記されているか？

主任（監理）技術者 ○○

実質的関与

総合的に把握し、
指導監督する！

【建設業法】

工程管理 □□

品質管理 △△

出来形管理 ××

写真管理 ◎◎

⋮

実質的な関与が十分でない場合は、成績評定（配置技術者）で評価を下げます。

施工計画書の主なチェックポイント（安全管理）

（２）安全管理

★その現場の状況、危険度を十分考慮しているか？

- 日常の安全点検、巡視、KYなど
- 安全研修・訓練 → 月ごとの実施計画があるか？
- 社内パトロール → 実施記録を整理しておく。
- 作業主任者、有資格者
- 移動式クレーンの検討結果
（作業半径、吊下げ重量）



安全研修・訓練実施計画の例

実施月	予定日時	内容
9月	9月1日 8:00~12:00	○ ○ ○
10月	10月1日 8:00~12:00	・ 請負契約 ・ 労働関係法令 <u>下請けへのしわ寄せ防止!</u> 義務化
11月	11月1日 8:00~12:00	当該作業で予想される 事故対策

工程表に合った内容が
望ましい。

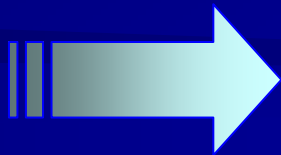


施工計画書の主なチェックポイント（安全管理）

施工プロセスチェック

安全活動	災防協、店社パト実施記録
	巡視、KY、新規入場者教育実施記録
	過積載防止記録
	機械・足場等点検簿
	保安施設管理簿など

施工計画書に明記



その内容が実施されているかどうかを確認し、評価に反映します。

施工計画書の主なチェックポイント（施工方法）

（３）施工方法

★どのような手順で、どのように施工するかイメージできるか？

- 事前測量 → 照査義務（設計図書と現地との整合確認）
→ 結果を書面で報告！
- 仮設計画が適切か？（出水時対策は？）
- 施工手順は？ → フロー図に

例えば・・・

掘削工

- 切土法面の保護方法
- 土質変化時、湧水時の対応
- 地下埋設物の保護等

コンクリート工

- 品質管理試験項目
- 養生方法
- 脱型のタイミング
- コールドジョイント対策等

As舗装工

- 試験練り
- 温度管理
- 開放時の温度等

ばらつきの評価について

(1) 当初設計値

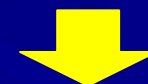
ブロック積み擁壁展開図

増工

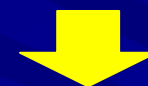
(2) 照査結果

(3) 出来形

照査結果の報告



監督員承諾



変更設計値

施工前に報告

この変更設計値と
出来形値との比較

施工計画書の主なチェックポイント（段階確認）

（5）段階確認・随時検査

★完成検査時に確認できないもので、重要なもの。

- 対象工種の確認を！
 - ➡ 共通仕様書、特記仕様書
 - ➡ 検査時に写真で説明しづらいものは追加を！
- 机上確認の場合、施工管理記録、写真等を十分整理する。
（低入札価格調査を経た工事除く）
- 測定結果について、監督員に書面により報告する。

足場撤去後、完成検査時に確認できない工種は
「随時検査」が必要

施工計画書の主なチェックポイント（緊急時）

（６）緊急時の体制及び対応

★緊急時の連絡体制が確立されているか？

- 大雨、地震時等災害発生の恐れがある場合の連絡体制、パトロール体制確立されているか。
- 地元への連絡体制が確立されているか。
- 土石流の前兆現象を把握した場合の対応
- 土石流を知らせるための警報設備を設け、点検・整備を行うこと。
- 避難場所・避難経路等の確保を図ること。

★気象庁ホームページ、京都府ホームページ等で

気象や雨量・水位データ等を確認し、事前の準備をして下さい。

施工計画書の主なチェックポイント（交通管理）

（7）交通管理

★適切な安全施設类等設置計画になっているか？

- 交差点、カーブ等現地の形状が反映されているか。
- 交通誘導員の安全確保は講じられるか。
- 夜間の保安対策は講じられるか。（チューブライト、保安灯等）
- 資材や機械などの運搬ルートや輸送方法、誘導員の設置、標識安全施設類の配置計画が適切であるか。
- 安全な歩行者通路は確保されているか。

★毎月、安全パトロールを実施し、点検します。

交通誘導員の配置について（交通管理）

交通誘導員の配置例



誘導員の手前側（黄色印付近）にクッションドラムの設置を。

自分がドライバーになった視点で運転してチェックを行うことが必要。

看板の配置について（交通管理）



信号処理を行う場合、事前に「信号機あり」の表示を行い、ドライバーに信号機があることの注意喚起を行う。
特にカーブ等で見通しの悪い場所では必ず設置すること。

信号機を設置した場合、「停止位置」を明確にしておく。

施工計画書と成績評定との関係

監督職員は現場施工が施工計画書と合致しているか、絶えず確認し、施工計画書のとおり施工されていない場合は、「文書」により改善を指示します。→ 減点対象

施工計画書の記載内容で不足していると思われる場合は、更に詳細な施工計画を追加提出するよう指示することがあります。

工事成績評定では、施工計画書と「施工体制が一致している」、「施工方法が一致している」、「変更内容に応じて変更施工計画書が提出されている」などの評価項目があり、施工計画書をきっちり作成し、そのとおり施工しないと高い評価は得られません。

施工計画書の提出に当たって

- 提出するだけでなく、監督職員と主任技術者と一緒に確認する。
- 説明が不足していると思われる場合は、更に詳細に記載し、追加提出してください。

「三方よし」の公共事業

